

5月CPはやはりP520^{ドル}・B530^{ドル}の高値予測
プレートAG～JPN64^{ドル} USGC～極東95^{ドル}
～4月中旬国際LPガス市場動向～

5月CP予測が上方修正されている。4月前半を終えた段階では、プロパンが510^{ドル}台・ブタンが520^{ドル}台半ばというのが元売各社の大勢だったが、第3週を終了または第4週初めに、これをプロパン520^{ドル}・ブタン530^{ドル}と修正した。原油の大幅な上げが修正の根拠となったようだ。以下、4月第3週の主要国際市場の動向を報告しておく。

1. 中東CP先物市場

第3週平均は、プロパンが510^{ドル}台前半、ブタンが520^{ドル}とそれぞれ数^{ドル}の上げ、数^{ドル}の下げだが、第4週初めにプロパン520^{ドル}台半ば、ブタン530^{ドル}台半ばへとハネ上った。原油高騰の影響を受けたもの。18日にはWTIが前日比0.24^{ドル}上げの64.00^{ドル}/バレルと小幅に上昇した。しかし、グッド・フライデーの休場と土日を挟んだ22日には、WTIが1.70^{ドル}高の65.70^{ドル}と一気に昨年10月下旬以来の約6カ月ぶりの高値となったのだ。翌23日の現段階では66.02^{ドル}と66^{ドル}台に乗せている。これを受けてLPガス中東先物市況も22日に上記520^{ドル}台半ば～530^{ドル}台半ばへ上げたもの。23日には一段高となることも予想される。

中東産ガス国の原油減産に伴うLPガスの供給不足は変わらない。前回の記事以後、新たに判明したが、サウジアラムコの5月ターム玉のアクセプタンス（船積み日指定）は、2社に関しては1週間～10日間の遅れとなったという。サウジは5月には原油をやや増産する意向とも伝えられるが、LPガスタイト化の開所にはつながらないとの見方が支配的だ。

2. 極東CFR市場

第3週のプロパンは前週比8～25^{ドル}上げの540～555^{ドル}、ブタンは同3～20^{ドル}上げの551～564^{ドル}となった。週後半に大きく上げた。更に第4週初めにはそれぞれ570^{ドル}、575^{ドル}と一段の高騰（5月後半取引物）となった。プロパンの供給にタイト観が強い。ただ、6月入着物に関しては500^{ドル}割れと先安になっており、日本の大手輸入元売は「低在庫ながら5月はタームカーゴの入着でなんとか乗り切れそうだ。6月物のスポットカーゴの手当ては考えている」としている。極東高値の要因は、前回伝えたとおり、モンベルビュー（MB）での滞船の影響。濃霧も火災による遅延も解消しているものの、過剰な船の集中で数日の積み遅れがまだ続いている。極東CFRとMB市況の格差は依然大きく、このアービトラージ（市況格差による裁定取引）により利ザヤを稼ぐトレーダーの動きは活発だ。

3. MB市場

MBの第3週市況は、プロパンが317～331^{ドル}で前週比2～5^{ドル}下げ、ブタンが333～346^{ドル}で同下値4^{ドル}上げ～上値8^{ドル}下げと軟調～横ばいだ。米国のプロパン在庫高は前回伝えたが、にもかかわらず横ばい程度にとどまるのは原油高の影響。原油が下支えしているわけだ。今後1カ月はガソリンシーズンインに備えた製油所フル稼働が続く。ガソリン混入用ブタン需要が増加するため、ブタン市況は原油高と相まって下げ渋る。プロパンは330^{ドル}前後が続くのではないかとの見方が支配的だ。

4. スポットフレート

とにかくひどい高騰ぶりだ。第3週に続騰してAG（アラビア湾）～JPNが62ドルになったが、これで驚いてはもらえなかった。第4週初めには64ドル!MBでの滞船がまだ解消されていないこと、北西ヨーロッパ向け・地中海向けにトレーダーが東海岸マーカス・フックに船を回していること、中東産ガス国の在庫不足でアクセプタンスに遅れが出たことで、船のタイト化が5月全体に拡散してしまったこと一などが響いている。USGC（米国メキシコ湾）～FE（極東）は何と95ドルだ。このフレート異常高が中東でも極東でも玉の市況の上値を抑えているとの見方もあるが、消費地仕上がり価格は上昇することにはかわりはない。こうして「例外事情」に際しては、備蓄義務の一時緩和ということも考えてもいいのではないか。

（記事 山内）